科目ナンバリング							
授業科目名 <英訳>	ILASセミナー ：地域地理学 ILAS Seminar :Regional Geography			担当者所属 職名・氏名	人間・環境学研究科 教授　　小島　泰雄		
群	少人数群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	ゼミナール（対面授業科目）
開講年度・ 開講期	2025・前期	受講定員 (1回生定員)	10 (10) 人	配当学年	１回生	対象学生	全学向
曜時限	月5	教室	人環437			使用言語	日本語
キーワード	中国 / 地域 / 地理学						

（総合人間学部の学生は，全学共通科目として履修登録できません。所属部局で履修登録してください。）

[授業の概要・目的]

テーマ：地域を共感的に理解する―中国をフィールドとして―

　地域は多様で重層的です。その多様性は、近代には地理教育として学びの対象に据えられました。そしてグローバル化が進展する現在、世界はフラット化するという楽観論とは裏腹に、地域の持つ意味、そして地域を理解する意味はむしろ増大しています。地域地理学は地域を調べ、考え、そして伝えることに取り組んできましたが、この授業では、地域地理学の基本的な方法をめぐって、中国をフィールドとして、作業とディスカッションを軸にゼミナールを行います。そして海外の地域に関する「共感的理解」とは何か、どうやって共感的理解にたどり着くか、を考えてゆきます。

[到達目標]

・地域地理学の基本的な方法を習得する。
・中国に対する理解を深める。
・ディスカッションする力、プレゼンテーションする力をつける。

[授業計画と内容]

ゼミナール形式で、授業は進められます。毎回提示される課題に関して、資料の収集や分析といった作業、あるいは口頭発表とそれをめぐるディスカッションを行います。受講生には中国に関する自らの興味関心を解明してゆくことが求められ、作業や発表の成果を最終的にレポートとしてまとめることになります。
つぎのような課題が提示されます。１課題あたり１～２週の演習を行う予定。

（１）「共感的理解」をめぐるディスカッション
（２）自ら設定したテーマの本を図書館で探す
（３）テーマに関連する新聞記事を探し紹介する
（４）中国に関する統計を使って考える
（５）統計データを用いて地図を描く
（６）主題図を用いて考える
（７）学術論文を利用する
（８）ネットで情報を収集する
（９）個人のテーマを決めて発表する
（１０）総合討論とレポートの提出

ILASセミナー ：地域地理学(2)へ続く↓↓↓

ILASセミナー　：地域地理学(2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

平常点評価。
出席状況・作業・発表・レポートによって、総合的に評価する。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）
国家統計局編『中国統計年鑑』（中国統計出版社）（中国語と英語で書かれた、中国の現状を知るための基本的な統計書。図書館で閲覧。）

[授業外学修（予習・復習）等]

授業ごとに課題が提示されるので、次回授業までにそれに取り組むことになります。
授業の最終段階では口頭発表とレポート作成が課題となるので、中国に関して何をテーマとするか自ら考えてゆくことが求められます。

[その他（オフィスアワー等）]

ゼミナール形式で行うことから、毎回出席できることを前提とします。それは、自らの作業・発表だけでなく、他の受講生の作業を見たり、発表を聞いて討論することが、ゼミナールの重要な過程となるからです。
二回生以上の全学部の学生、および学部科目として履修する総合人間学部生は、初回授業に必ず出席すること。定員を超えた場合には、履修動機により履修許可者を決めます。

[主要授業科目（学部・学科名）]